

庁議記録

日 時 令和元年11月13日（水）

9:00～9:15

場 所 テレビ会議室

【浦本副知事】

ただいまから、庁議を開催いたします。

それでは早速議事に入ります。まずは、「東京オリンピックのマラソン・競歩の札幌開催について」、環境生活部長から、説明をお願いします。

【環境生活部長】

東京オリンピックのマラソン・競歩の札幌開催についてご説明させていただきます。

東京オリンピックのマラソン・競歩の札幌開催につきましては、先の庁議で、I O Cからの提案状況についてご報告をさせていただきましたが、正式に決定されたことから、これまでの経緯や事実関係を庁内各部及び振興局の皆様へ情報共有していただくとともに、今後想定される主な取組について、ご報告をさせていただきます。

お手元の資料の「1 経緯」ですが、前回の庁議でご説明しましたが、一月前の10月16日にI O Cが移転の検討を公表したところであり、その翌日には、道と札幌市とで実務者連絡会議を開催し、情報の共有や影響の検討を開始しております。

そして、今月1日、東京で開催されたI O C調整委員会におきまして、I O C、組織委員会、東京都、国による四者協議で、札幌開催が決定されたところです。

決定後、直ちに、組織委員会の森会長から知事に、決定と協力要請の電話連絡がありました。

同日、開催された道と札幌市の行政懇談会では、知事と市長の間で、マラソン・競歩の開催も協議され、短い準備期間の中で、様々な課題に効率的に対応していく必要があるため、連携を強化していくことが確認されたところです。

今月7日には、森会長が、また、翌8日には、武藤事務総長が来道され、知事・札幌市長にあらためて協力依頼をされるとともに、事務総長はコース候補地を視察されました。

同日、組織委員会・道・札幌市による、第1回実務者会議が開催され、道からは私とスポーツ局長などが出席し、開催に向けた協議がスタートしたところです。

第1回実務者会議での協議概要ということで、「2 第1回実務者会議での協議概要」をご覧ください。これらの項目が組織委員会から示されまして、今後、協議を進めていくことで合意しております。

まず、会場及び日程については、3か所で検討中ですが、組織委員会としては、最優先で案を確定し、12月3日から5日にかけて開催されるI O C理事会において、承認を取っていきたいとの考えです。

経費負担については、東京都以外での競技開催に適用される、これまでの合意を踏まえ、道は行政経費を担うこととなりますが、この行政経費とは、急患搬送などの救急や道路の恒久的補修など通常無償で提供される行政サービスのことと整理されております。

運営体制については、今後、組織委員会が札幌に設置する予定の現地運営体制に向けまして、組織委員会としては、道・市・民間等からの派遣を想定しており、必要な業務等を協議しながら、民間・市町村への協力依頼を含め、協力していくこととしております。

その他として、宿泊、輸送、練習会場の確保などの課題も示されたところです。

今後の主な取組ということで、実務者会議での協議を踏まえて、今後、対応が必要と想定される主な取組について、ご説明させていただきます。

まず、取組と主体のイメージですが、①競技運営・実施は組織委員会が主体となり、②、③の開催支援

や機運醸成などについては、道や市が全面的に協力、実施をしていくものです。

想定される具体的な取組を矢印の下側に記載しておりますが、組織委員会が担う、競技の運営・実施としては、民間や市町村の連携・協力も受けながら、大会関係では、競技運営、宿泊、医療などの確保まで運営し、会場関係では、仮設から通信インフラなどの整備まで自ら行っていくこととなっています。

道や札幌市の取組では、②開催支援・協力として、ルート設定や交通規制等に関する実務者会議での協議を、極めて短い準備期間の中で進めていく必要があります。

また、その協議の中で、宿泊・輸送・ボランティア・事前合宿などについて、業界団体や札幌市への協力要請や、会場周辺の公有地や公有施設の活用配慮について、関係各部に連携・協力をお願いする場面が出ることを想定しています。

また、道や札幌市の取組として、③おもてなし・機運醸成・魅力発信については、これまでも、サッカー競技の札幌開催や東京での大会開催に向けて取り組んできたところですが、今回のマラソン・競歩の開催には、国内外から多くの選手・観客・メディアの来道が期待されること、屋外競技であり、環境順応のため道内での事前合宿が期待されること、コースを通して札幌の街並みが世界に発信されることなど、多くのチャンスも見込まれることから、関係部のより積極的な取組をお願いしたいと考えております。

今後、組織委員会・札幌市との実務者会議の協議と並行して、庁内で情報共有をさせていただき、まずは、すでに設置しております、庁内連携組織である「北のTOPプロジェクト」を活用しながら、課題の洗い出しとともにアイデア出しを行い、迅速に具体的な対応に取り組んでいく考えてございます。

引き続き、庁内の連携を一層図りながら、取り組んでいきたいと考えておりますので、各部、振興局におかれましても、ご協力をよろしくお願いいたします。以上でございます。

【浦本副知事】

それでは、この件に関して何かご発言等ございますか。

では、この件につきまして、知事からご指示をお願いいたします。

【知事】

私から、東京オリンピックのマラソン・競歩の札幌開催について、お話しさせていただきたいと思えます。

この件が、マスコミ報道などがなされてから、庁内の多くの方が期待とともに「今後どうなっていくのだろう」ということで、心配な部分もあったのではないかと考えています。

先ほど説明がございましたけれども、11月7日に森組織委員会会長がいらっしゃって、皆さんどうなるのだろうと思っていた部分、経費の部分について、北海道に迷惑をかけないようにしたいということでご発言がありました。

また、今まで取組を進めてきた東京都や、東京開催で準備をされてきた方々の思いを考えたときに、複雑な部分が正直ありました。その部分についても、組織委員会として汗を流してほしいということを申し上げて、そのように受け止めていただいたと思っています。

また、2日前ですが、東京都の小池知事ともお話をしました。その中では、しっかりと一緒に頑張っていこう、応援しますというお話がありましたし、また昨日は、自民党の二階幹事長や橋本担当大臣ともお話をし、それぞれから応援をいただける、そういったご発言があったところです。

経緯はそういった状況でございますが、ぜひ本日からモードチェンジといいますか、ギヤを上げていかなければならないと思っております。

この極めて短い期間の中で、2020大会、そして新しく札幌で開催することとなったマラソン・競歩、これを成功させていくことができなければ、オリンピックの成功なしということとなります。

そういった意味では、我々は大変重要な役割を担うこととなったということです。ぜひ、札幌、北海道、多くの方々と力を合わせて、大成功に導いて、道民の底力を発揮し、世界に誇るオリンピックを、皆さんとともに創りあげていきたいと、そのように思っております。

そしてそのためには、今日庁議において指示をさせていただきますけれども、各担当分野に関する課題の洗い出しをしていただきたいと思います。

組織委員会、札幌市、道の役割については、先ほど説明したとおりでございますけれども、これは指示を待っているというよりは、どのような協力ができるのか、また、このチャンスを最大限生かすためにはどういった取組が必要なのかについては、各担当部からぜひ積極的な提案、そして協力の内容についてあげていただきたいと思いますと考えております。

どうしても短い期間の中でやりますので、担当する人間が気づかないことがあると思いますから、道庁の組織力を発揮して、細かな点も含めて、ぜひ、「こういったことは気づいているかな」ではなく、気づいたら共有をしていくということで取り組んでいただきたいと思います。

また、このチャンスを最大限に発揮するために、国内外に北海道の素晴らしさ、そして札幌の素晴らしさを、179の市町村の皆さんと力を合わせてプロモーションを行っていかねばならないと思いますので、すでに取組を進めようとしている食や観光のプロモーションをはじめとして、例えば、民間の方で言いますと、オリンピックのオフィシャルのスポンサー、そういった企業などもございますし、また、我々、ほっかいどう応援団会議というものも立ち上げているわけでありまして、そういった民間の皆様、団体の皆様が実施する様々な事業と連携した取組を進めて、大会の成功につなげていかねばならないと思っています。

この大会において、知恵と力を結集して、この大会の成功までのプロセスも含めて、レガシーにしていかなければならないと思っています。

今、お話した内容については、まずは直ちに始めていただきたいと思いますということでもありますけれども、本格的に検討を進めていくに当たっては、当然体制を考えていかないといけないと思っていますのですが、組織委員会等の動きも今、まさに並行して進んでいるところでございまして、そういった動きもしっかり見ながら、限られた人数の中で最大の効果を発揮する体制ということを念頭に、体制についても検討していただきたいと思います。

非常に限られた時間の中で、前例なき挑戦を皆さんとともにすることになりましたけれども、私はあらゆる機会に、ピンチをチャンスに変えるんだ、ということをお願いしてきました。このチャンスをしっかりものにし、北海道の力を是非皆さんに示していきたいと思いますので、これは全庁で取り組んでいく話ですので、今日私のこの話を聞いていただいている方々、または都合で聞けなかった方もいると思いますので、幹部職員からも徹底していただきたい、そのように思います。

皆さんの協力を心からお願いしたいと思います。私からは以上です。

【浦本副知事】

ありがとうございます。それでは、各部、各振興局とも、しっかりした対応をお願いします。次に、来年度の政策検討に向けまして、これは知事からご指示をお願いしたいと思います。

【知事】

9月の庁議におきまして、私から「令和2年度に向けた政策検討の考え方」について、お示しさせていただいたところであります。

政策検討に向けての方向性や視点など指示をいたしました。来年度の政策検討に向けて、今後、庁内外の政策議論を加速させていきたいと考えています。

そこで、まず、第一弾といたしまして、今月、11月下旬に一次産業や経済、保健福祉など、様々な政策分野における道内関係団体と私が意見交換をさせていただく機会を作っていきたいと考えています。

非常に各団体の皆様もお忙しい中でご参加いただくこととなります。貴重なご意見を参考として、各部局においても、より効果的な政策の検討を行っていただきたいと思います。

次に、11月下旬以降の予定になりますが、各振興局長から私に対して、地域のご意見や実情を踏まえた政策提案をお願いしたいと思います。

これまで私もできるだけ、各地域に直接足を運んで、多くの方々からお話をお伺いしたいということで、その際には各振興局長にもご協力をいただいたところでもありますけれども、地域からの提案内容についてしっかり受け止めて、それを受け止めるだけではなくて、具体的に来年度予算への反映等について検討をしていかなければなりません。

その点について、ご検討をいただきたいと思っています。これが二点目です。

三点目でございますけれども、こうした団体の皆様からのご意見や地域の政策ニーズなども踏まえながら、私自身、直接各部と政策議論する場を設けたいと考えています。

ぜひ、この場でも率直な皆様のご意見、そして提案などもいただきながら、議論を積み重ねていきたいと思っています。

このようなプロセスを経ながら、北海道が誇る価値を更に発揮できる、課題を横断的に俯瞰した戦略的な政策づくりを進めていきたいと考えているところであります。

幹部の皆様におかれましては、どうしても部ごとの話に完結してしまうことがございますので、部局間の連携を十分に図っていただき、先ほどオリンピックの話でもさせていただきましたけれども、官民連携の強化も含めて、地域や団体など幅広い方々の思いを反映していただき、私と皆さんとで、より実効性の高い政策を構築していきたいと思っておりますので、今お話しした内容について、十分にご理解をいただき、取組を進めていただきたい、と思っております。私からは以上です。

【浦本副知事】

ただ今の知事のご指示に対しまして、何か発言はありますか。

それでは、また来年の政策立案に向けまして、しっかりと対応をお願いしたいと思います。

以上で、本日の庁議を終了します。